

応募総数269品

土佐のいい物・おいしい物コンクールで見事入賞

9月15日に高知市のかるぼとで「土佐のいい物・おいしい物コンクール」の審査会が行われ、応募総数269品から加工食品部門大賞1品、非食品部門大賞1品、発見賞1品、優秀賞7品が決定し、池川地場産品加工組合の味付けこんにゃく「味まる（池川こんにゃく）」が見事優秀賞に選ばれました。

平成12年に始まったこの事業は、今後一層の販路拡大を目指している商品を県内事業者から募集し、消費者や専門家による評価を通じた商品改良や開発・販路拡大を支援し、県産品を積極的にPRすることを目的としています。

9月3日・4日には審査会に先立ち、高知市のイオンモール高知で商品の展示会と審査の参考となる一般投票が行われました。一般投票の結果は堂々の1位（加工食品部門）、消費者の心をつかんだ「味まる（池川こんにゃく）」が、審査会でも高い評価を得ました。

10月8日には高知市のひろめ市場で表彰式と展示販売会（展示販売会は翌日も開催）が行われ、知事から賞状が手渡されました。

池川地場産品加工組合の三浦榮子代表は「たくさんの商品の中で入賞して嬉しい。これを励みにまた頑張ります」と喜びを語っていました。

（23ページに関連記事）

池川地場産品加工組合の味付けこんにゃく「味まる」

入賞した10商品は、来年1月に東京ドームで開催される「第4回ふるさと祭り東京」に出展されるほか、東京銀座アンテナショップ「まるごと高知」で展示販売（2月の土・日曜日）も行う予定です。



ひろめ市場での展示販売会は、連日売り切れの大盛況



受賞を喜ぶ三浦代表と町長

各地区で長寿祝う 敬老会

お年寄りの長寿を祝う敬老会が、9月に町内約30会場で行われました。

8月末現在、町の人口6,677人のうち、70歳以上の方は2,788人です。

社会に長年貢献してこられた皆さんのため、演芸や踊りなど楽しい余興や豪華な食事でもてなしました。

地区の子どもたちが参加した会場も多く、にぎやかで笑いの絶えない1日となりました。



森



寺村

皆さん
いつまでも
お元気で



第6回池川大運動会盛大に 狩山チームが接戦制す

10月9日 絶好の天候に恵ま

れたこの日、池川小学校グラウンドで第六回池川大運動会が行われ、八チームが優勝を目指して熱戦を繰り広げました。

子どもやお年寄りも参加できる競技も多数あり、選手も応援の人も和気あいあい、楽しく汗を流しました。

終盤までどこが優勝するか分からない、ハラハラ・ドキドキの展開でしたが、接戦を制した狩山チームが優勝旗を手に入れました。

(準優勝は椿山大野チーム)



100歳おめでとうございます

9月25日 森(大内)の岡崎穂澄さん(明治44年生まれ)が100歳の誕生日を迎え、大石町長から長寿祝いが贈られました。

岡崎さんは別枝の出身で、7人兄弟(男4人・女3人)の次男として生まれました。現在は自宅で娘さん2人と暮らしています。

郵便局の職員として、主に郵便配達の仕事をして37年間勤め上げました。当時は車もバイクもなく、途中まで自転車で、きつい坂道は徒歩で山奥まで郵便物を運びました。真冬の深い雪道を歩きながら「これほど苦労せないかんもんか」と泣きそうになることもありましたが、配達先の人に「こんな大雪の日に来る者がおるか」と言われると、余計に「行かないかん」という気になり、頑張ってきたそうです。

郵便局を退職後は、四国電力関連の仕事を

森(大内)の岡崎穂澄さん

10年以上勤め、旧仁淀村の電線がある所にはほとんど出向いたそうです。「仁淀の地理は隅から隅まで知っちゅう」と笑顔の岡崎さん。

最近は家族が録画してくれている時代劇のちゃんばらシーンを見るのが楽しみで、特に「遠山の金さん」や「水戸黄門」がお気に入りだそうです。



京都の娘さんからお祝いにもらった花と一緒に、パチリ

星ヶ窪 ハイキング

10月9日 星ヶ窪キャ

ンプ場で恒例のハイキングが行われ、子どもから大人まで約三百人が参加しました。

当日は大目真壺さんのオカリナ演奏や堀内佳さんの青空コンサート、下駄飛ばし・紙飛行機飛ばし大会が行われたほか、飲食コーナーも盛況で、会場には終日にぎやかな歓声が響いていました。



高原の秋にぎやかに

仁淀郷土愛育む清掃活動

9月28日 仁淀中学

校の全校生徒五十九人が仁淀地区の四方所で、地域の方と一緒に清掃活動を行いました。

「自分たちの誇れるものを大切にしよう」をテーマに、秋葉神社、長者五所神社、長者十王堂とシヨウブ畑、竹谷のお大師堂の四班に分かれての奉仕活動で、生徒たちは班ごとに目標を決め、道具の用意・確認なども自分たちで進めてきました。

当日は、地域の方も応援に駆け付け、社殿のふき掃除やトイレ掃除、境内やシヨウブ畑の草引きなどを入念に行いました。幼いころから親しんできた場所をきれいにすることで、郷土の良さを見つめ



隅々まで念入りに

なおすことができ、充実した活動となりました。一緒に参加した地域の方も、とても嬉しそうな表情でした。

終了後、班ごとに行った反省会では、生徒から「来年もぜひやりたい」との声が多く聞かれ、古里のために行った清掃活動に満足の様子でした。

武田家発祥の地で町伝統文化披露

10月8日～10日 仁淀川町に伝わる武田勝頼落人伝説で地域活性化を行っている武田勝頼土佐の会（岡林照壽会長）と町関係者ら21人が、武田発祥の地として知られる山梨県韮崎市を訪問し、歴史・文化・物産などさまざまな分野で交流を深めました。

一行は、10月9日に同市で開催された“武田の里にらさき・ふるさとまつり”で武田勝頼落人伝説のPRや玄蕃おどり・安居神楽の披露や仁淀川町物産販売などを行ったほか、会場で横内公明市長に大石町長からの親書を手渡しました。

また、武田勝頼にゆかりのある長野県岡谷市、諏訪市の関係者とも協議し、来年10月に仁淀川町で開催予定の全国武田の里サミットへ

武田勝頼土佐の会ら韮崎市訪問

向けたネットワークづくりの大きな一歩となりました。

岡林会長は「勝頼ゆかりの皆さんとの交流がさらに深まったことで、来年のイベント等に向けて大きなステップアップとなりました。今回の訪問を通じて仁淀川町の地域活性化につなげていけるよう、これまで以上に努力したいと思います」と抱負を語っていました。



祭り会場で横内市長（左）に町長からの親書を手渡しました

池川保育園年長組が米作り初体験

10月18日 池川保育園の年

長組園児たちは、狩山老人クラブ「狩山明朗会」の協力のもと、代掻きや田植え、かかし作り、稲刈りと、一年を通じて米作りを体験学習してきました。

おにぎりで収穫祭♪

これは米作りを通じて、園児たちに毎日食べているお米のありがたさや、物を大切にする気持ちを育んでもらおうと、今年初めて実施されたものです。

秋晴れのこの日、見ノ越の田んぼで収穫祭が行われました。狩山明朗会の皆さんが炊きたてのご飯で作ったおにぎりを、園児たちはおいしそうにほお張っていました。



収穫祭当日、脱穀のお手伝いも一生懸命頑張りました